

やまがたの和牛増頭戦略事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策5 畜産業の競争力強化						
	目的	県産畜産物の生産拡大とブランド力向上を進めることにより、グローバル化の進展などにもとない激化する産地間競争を勝ち抜く競争力の高い畜産業の振興を図る。						
	目標指標(R2)	畜産による産出額	500億円					
	策定時の実績	447億円(H26)	現状	471億円(H28)	主要事業 「山形生まれ山形育ち」の畜産物の生産拡大とブランド力向上			
事業名	やまがたの和牛増頭戦略事業費		担当課・担当	畜産振興課 畜産振興担当				
事業開始年度	不明		事業終了(予定)年度	未設定				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	和牛繁殖農家の規模拡大に向けた繁殖雌牛の導入に対して助成するとともに、乳牛への受精卵移植により和牛子牛の増産を推進し、「山形生まれ・山形育ち」の総称山形牛の生産拡大を図る。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	①関係機関・団体による県戦略協議会や地域推進会議を開催し、振興策を検討しながら、「やまがたの和牛増頭運動」を展開 ②和牛一貫経営への円滑な移行を支援するため、関係機関による現地指導のほか、飼養管理技術等に関する研修会の開催やICT等を活用した繁殖管理技術に関する現地実証の実施 ③和牛繁殖農家の繁殖雌牛導入(増頭)への助成 ④乳牛への和牛受精卵移植の現地実証と移植師を対象とした技術向上研修会の開催							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由： ①直接実施：和牛振興策を検討する協議会の運営や研修会等を行うため ②補助：和牛増頭に関する取組みを関係機関を通して支援するため							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	増頭戦略の展開	373	373					
	和牛繁殖雌牛増頭事業	17,000	17,000					
	和牛繁殖・肥育一貫経営移行支援事業	3,088	3,088					
	和牛登録協会組織強化補助	886	886					
	和牛繁殖雌牛導入事業	0	0					
	ET活用和牛増産事業	1,625	1,712					
	和牛肉の食味「見える化」確立事業	—	—					
	むらやまの和牛評価向上プロジェクト	648	648					
計	23,620	23,707	0	0	0			
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	0	0					
	繰入金	0	0					
	その他特定財源	0	0					
	一般財源	23,620	23,707					
	計	23,620	23,707	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	和牛繁殖雌牛の導入支援頭数	活動実績	頭	168	170			
		当初見込み	頭	170	170	170	170	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	和牛繁殖雌牛頭数(農林水産統計値)	成果実績	頭	6,720	7,220			
		目標値	頭	6,630	6,940	7,250	7,500	
		達成度	%	101.4	104.0			
関連事業	畜産経営競争力強化支援事業費							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

①目標の考え方

本事業の成果としての和牛繁殖雌牛頭数の増加が、短期アクションプランの目標指標である「畜産による産出額」の増加に直結することから、和牛繁殖雌牛頭数を目標に設定。

②目標数値の考え方

事業目標設定時の和牛繁殖雌牛頭数の現状値(H27:6,140頭)をベースに、生産者の規模拡大意向を勘案し目標値を設定。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<p>・高齢化等に伴い和牛繁殖農家戸数の減少が続いている中、品質の高い総称山形牛の生産拡大を図り、産地間競争に打ち勝っていくため、和牛繁殖雌牛の増頭と和牛子牛の増産が求められており、優先度の高い事業である。</p> <p>・目標水準は、「山形生まれ・山形育ち」の総称山形牛の生産拡大を図る観点から、子牛の県内自給率の向上を基本に、肉用牛農家の今後の経営意向を勘案して設定しており、妥当である。</p> <p>・成果(和牛繁殖雌牛頭数)については、実績が目標を上回っている。また、研修会の開催や現地指導、現地実証を通して、飼養管理技術の向上が図られている。</p> <p>・各農家に導入された和牛繁殖雌牛は、適切に活用されている。</p>
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・活動実績(和牛繁殖雌牛の導入支援頭数)は、見込み通りとなっている。
	支出先の選定は妥当か。	A	・支出先(和牛繁殖雌牛導入補助金の交付先)は、事業目的に即して意欲的に増頭を図る農家に限定しており(農協経由)妥当である。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	・和牛繁殖雌牛の導入補助においては、1頭当たり上限額を設定し、補助残を受益者である肉用牛農家が負担しており、負担関係は妥当である。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	・研修会の開催や現地指導等の直接実施に係る費目・使途や、補助対象経費については、真に事業目的に合致するものに限定している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	・直接実施する事業については、効果的な取組みとなるよう、関係者間で十分協議し実施している。また、補助事業についても、上限額を設定することで、限られた予算の中でより多くの農家に事業効果が行き渡るよう実施している。
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	・目標達成に向けた取組みを重点的・効果的に実施するため、他の畜種等の事業と役割分担を行っている。	
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・本事業は、市町村や関係団体等と連携しながら、県全体で和牛の増頭に取組む事業であり、県内の肉用牛農家間で事業活用機会に差が生じることのないよう、県が実施する必要がある。
今改善の点課題	<p>・繁殖農家戸数の減少が続いており、引き続き、担い手の確保・育成を図りながら、和牛繁殖雌牛の更なる増頭や生産性の向上に取り組んでいく必要がある。</p> <p>・また、今後、輸入牛肉の増加や産地間競争の激化が見込まれることから、総称山形牛のブランド力強化が大きな課題であり、肉質や食味の評価を更に高めるための取組みを進めていく。</p>		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない